

子育て・子どもの孤立を
オール松戸で予防する

「まっどでつながるプロジェクト」



松戸市における子育ての現状

松戸市の
子育て支援が
高い評価を受けました

共働き子育てしやすい街ランキング
2020

松戸市が
総合編 **1位** を受賞
(日経 DUAL 調査)

総合編 (東京都を含む)		
1位	松戸市(千葉県)	74点
2位	葛飾区(東京都)	72点
2位	豊島区(東京都)	72点
4位	大分市(大分県)	71点
4位	新宿区(東京都)	71点
4位	福生市(東京都)	71点
7位	板橋区(東京都)	70点
7位	大和市(神奈川県)	70点
9位	青梅市(東京都)	69点
9位	北九州市(福岡県)	69点

松戸市における子育ての現状

虐待の対応件数…年間 **1317** 件（2011年→2020年で約4倍）

松戸市子ども・子育て会議資料/地域円卓会議資料より

子どもを虐待しているのではと思うことがある…**7.1**%（14人に1人）

H30年松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査より

生活に経済的困難を抱える世帯…**25.1**%（中学2年生の4人に1人）

H29年子育て世帯生活実態調査より

自分の将来に夢がないと回答…**35.0**%（中学2年生の3人に1人）

H30年松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査より

これまでの活動で感じてきた伝わらない課題

<当事者から感じた「子どもを取り巻く不条理」>

●家族以外の人（情報）とのつながりが希薄になっている

- ・ 共働き家庭でほとんど家にいない。休日も市外に出してしまうので地域で生活していない。
- ・ 自分自身は孤立している意識はなくても、いざという時に頼れる人や相談できる人がいない。
- ・ 子育ての悩みを相談できる場所がわからない。相談するほどではないと思っている。

●必要な人に届いていない、いわゆる支援は自分に関係ないものだと思っている

- ・ シングル家庭、外国人、障がい者など個別にサポートが必要な人に情報が届いていない。
- ・ 本当は子どもにとって厳しい環境にあるけれど、虐待、DVという認識を持っていない。
- ・ 支援を頼るほどの言語化・理解ができていないが、つらい、しんどいという気持ちがある。

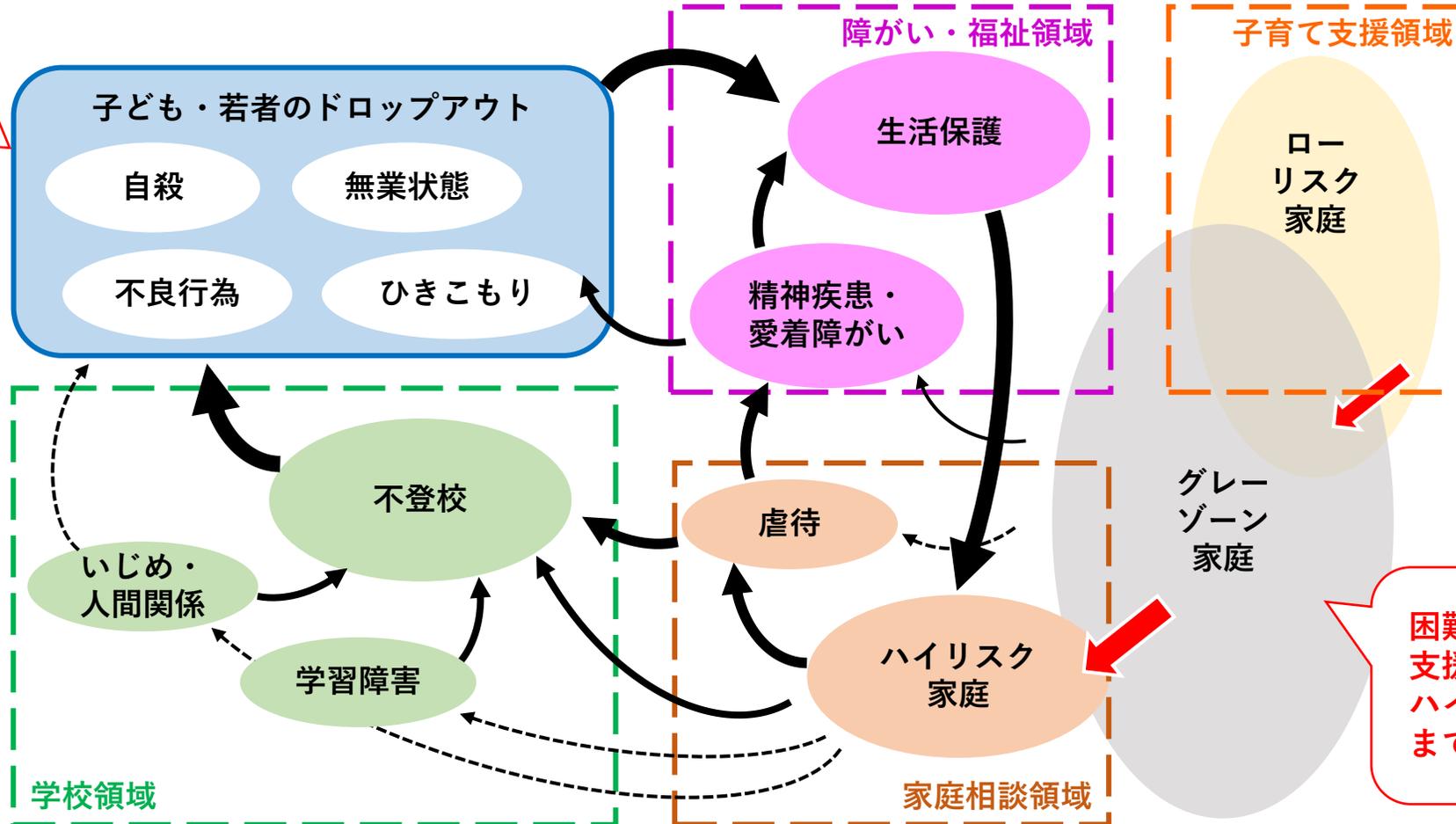
●子育ては親（母親）の責任とされていて、情報の格差が生まれている

- ・ 子育てで気になることがあっても情報が見つけられない。その情報が正しいのかわからない。
- ・ 情報があちこちにバラバラで、自分で必要な情報が探しきれない。
- ・ 市内には様々な支援やサポート体制があるが、自らアクセスしなければつながらない。

ヒアリングで課題整理して見えてきた構造

< 様々な領域にわたる子育てを取り巻く環境 >

若年無業者の支援を行うNPOによると、相談者の5割が不登校経験があり、7割が生育歴に課題があった。



困難を抱えがちな人ほど支援につながりづらい。ハイリスクに当てはまるまで顕在化していない。

まつどでつながるプロジェクトとは

核家族化
共働き世帯の増加
子育ての孤立感

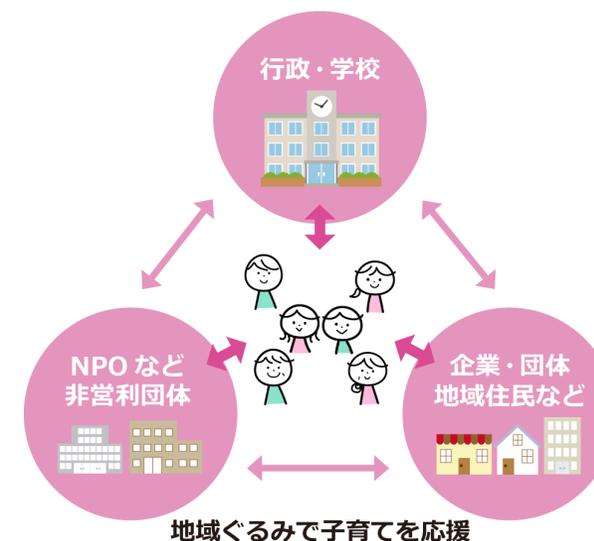


産後うつ
虐待
環境の悪化



愛着障害
貧困の負の連鎖
社会的転落

様々な行政施策・支援はある
が…「つながれない人」が問題



この人たちが「子育てしやすい」を
実感できる街にできないだろうか？

運営団体について

●本事業を推進する運営団体（コンソーシアム）

主幹事団体【NPO法人MamaCan】

- ・山田美和（理事長）…全体統括
- ・松戸市内の母親ネットワークを形成しており当事者に近い存在として支援している

<本事業における役割>

- ・各事業の運営全般を担う
- ・当事者のヒアリングやニーズの収集
- ・協賛企業へのアプローチ、折衝

【特定非営利活動法人まつどNPO協議会】

- ・阿部剛（理事）
- ・松戸市内のNPO、市民活動団体のネットワーク組織として行政事業に従事している

<本事業における役割>

- ・プロジェクト全体の企画、調整を担う
- ・市内ステークホルダーやオブザーバーとの折衝、関係づくり

【NPO法人さんま】

- ・石川静枝（理事長）
- ・子ども食堂の運営や困難世帯への個別支援をはじめ、子ども館を運営している。

<本事業における役割>

- ・プロジェクト全体の企画、調整を担う
- ・行政や福祉専門機関との折衝、連携に向けた関係づくり

事業実施における協力

実施報告

フィードバック



資金調達・助成金

情報提供・資源の共有



調査分析における知見

事業実施における知見



【運営委員】

- ・高橋亮…まつど子ども食堂の会 代表
- ・三浦輝江…NPO法人子どもの環境を守る会Jワールド 理事長
- ・桑田久嗣…まつど子ども若者支援ネットワーク代表
- ・小橋孝介…市立病院小児科副部長
- ・宮間恵美子…社会福祉士、元松戸市地域共生課長

【基金】

- まつど子育てささえあい基金
- ・志村はるみ（公益財団法人ちばのWA地域づくり基金 専務理事・事務局長）
- …本プロジェクトを持続的に運営するために立ち上げた基金。寄付や協賛金の受付先として従事。

【円卓会議メンバー】

- ・松戸市役所（子ども部全課、生活支援課、市民自治課、男女共同参画課、生涯学習推進課、教育委員会、等）
- ・子育てや子どもの支援に関わる団体（NPO、社会福祉法人、企業、地縁組織、等）

【オブザーバー】

- ・認定特定非営利活動法人こまちぷらす

【調査研究】

- ・石田光規（早稲田大学 文学学術院 教授）

●まつどでつながるプロジェクト運営協議会

●外部連携パートナー

事業の全体像



- ①子ども・子育ての当事者を真ん中にした**地域円卓会議**
- ②行政・民間の子育て情報を一元化した**WEBサイト、LINE窓口**
- ③子育ての孤立を未然に防ぐ**家族設計ワークショップ**の実施
- ④赤ちゃんの誕生と共に地域で支える**出産お祝いプレゼント**の配布
- ⑤子ども・子育てを連続的に見守る**伴走型支援のネットワーク**形成

<コロナ対策事業>

- ⑥コロナ禍でも子どもたちの学びとつながりを切らさない**オンライン学童**
- ⑦自らつながれない、つながろうとしない世帯への「**移動販売車（キッチンカー）**」による**アウトリーチ型支援活動**



①子ども・子育ての当事者を真ん中にした地域円卓会議

行政・福祉専門職・子育て支援NPO・子ども食堂など、子育てに関わる多くの機関や団体が集まり、**子育て当事者が置き去りにされない議論、本質的な子育てしやすさを目指す組織間連携**を生み出す。個人個人の相互理解を育むことを基盤に、それぞれが持っているピース（資源）を持ち寄り、支援とそれを必要としている人が適切につながる体制を生み出していく。



※過去の開催実績：2017.3.10：参加者12名、2018.1.27：参加者50名、2019.1.18：参加者30名
2020.6.29：参加者33名、2020.11.11：参加者38名、2021年3.2：参加者41名、2021年7.5：参加者32名

事業の概要

②行政・民間の子育て情報を一元化したWEBサイト、LINE窓口

物理的・精神的に外に出づらく相談窓口に行けない人が公と民間両方の情報を得ることができるWEBサイトを運営。また自分に必要な情報を探せない人が気軽に尋ねられるLINE窓口を展開。2021年にリニューアルして相談件数も少しずつ利用者が増えてきている。

自分に関すること

子ども・子育てに関すること

家庭に関すること
・その他



LINE窓口

WEBサイト
QRコード⇒



※現在の実績：WEBサイト…約2000ページビュー（リリース後5か月間の月平均）
LINEの問い合わせ数…年間35件

④赤ちゃんの誕生と共に地域で支える出産お祝いプレゼントの配布

子育ての早い段階で親子とのつながりを作るため、松戸市で赤ちゃんが生まれたご家庭に出産祝いをお贈りする事業です。地元企業の方々にご協力によるお祝い品や松戸市内の子育て情報をまとめたファイルなどが入っています。



手渡しでお届け



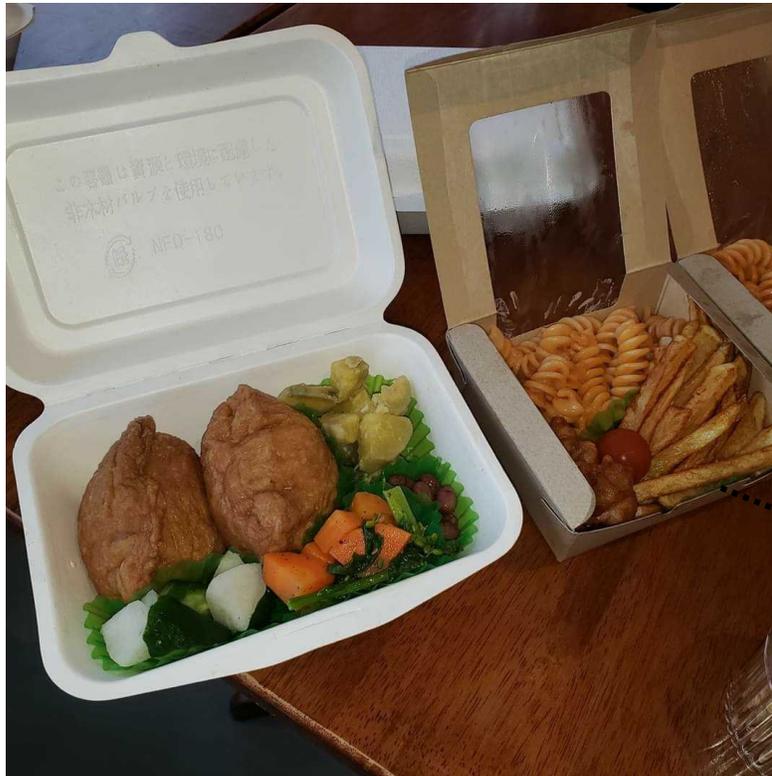
手書きで書いた
メッセージと共に
届けるノンカフェ
インコーヒー

⑤子ども・子育てを連続的に見守る伴走型支援のネットワーク形成

若年妊婦、精神疾患を抱える家庭、多子家庭、ひとり親家庭、困窮世帯など、子育てにおける何かしらの困難がある世帯への継続的な支援を行っている。関係機関と連携を取りながら、おむつなどの日用品やフードバンクによる食の個配などに対応している。



2020年度実績：述べ約300人：9月23人、
10月41人、11月～3月まで各約50人)



ひとり親世帯への
支援として毎月お
弁当を届けている

⑥子どもたちの学びとつながりを切らさないオンライン学童

コロナ禍もあり、社会との接点を作りづらくなっている子どもたちにオンラインでつながりと学びを届けるオンラインパーク。一人ひとりに寄り添いながら、プログラミングや実験教室などを実施している。



まつどでつながるプロジェクト
OnlinePark
オンラインパーク

毎週水・金曜日
16:45~18:00
対象年齢 6歳~15歳

おうちにいながら・子どもの世界が広がる！
主催の「まつどでつながるプロジェクト」では、松戸市内の子育て家族・パパ・ママ・子どもが笑顔になれる取り組みを実施しています！その中の一つとして、コロナ禍にも負けないオンラインを活用した子どもたちの学びと遊びを届ける事業を企画しました。自宅にいながら、スマホやパソコンを通じて新しいチャレンジをしてみよう、同世代の子どもたち同士をつなぐを広げていきます。

水曜日開催 探求コース
実験や工作、料理や流行りものなど様々なことに挑戦し子どもたちに新しい体験を提供していくコースです。

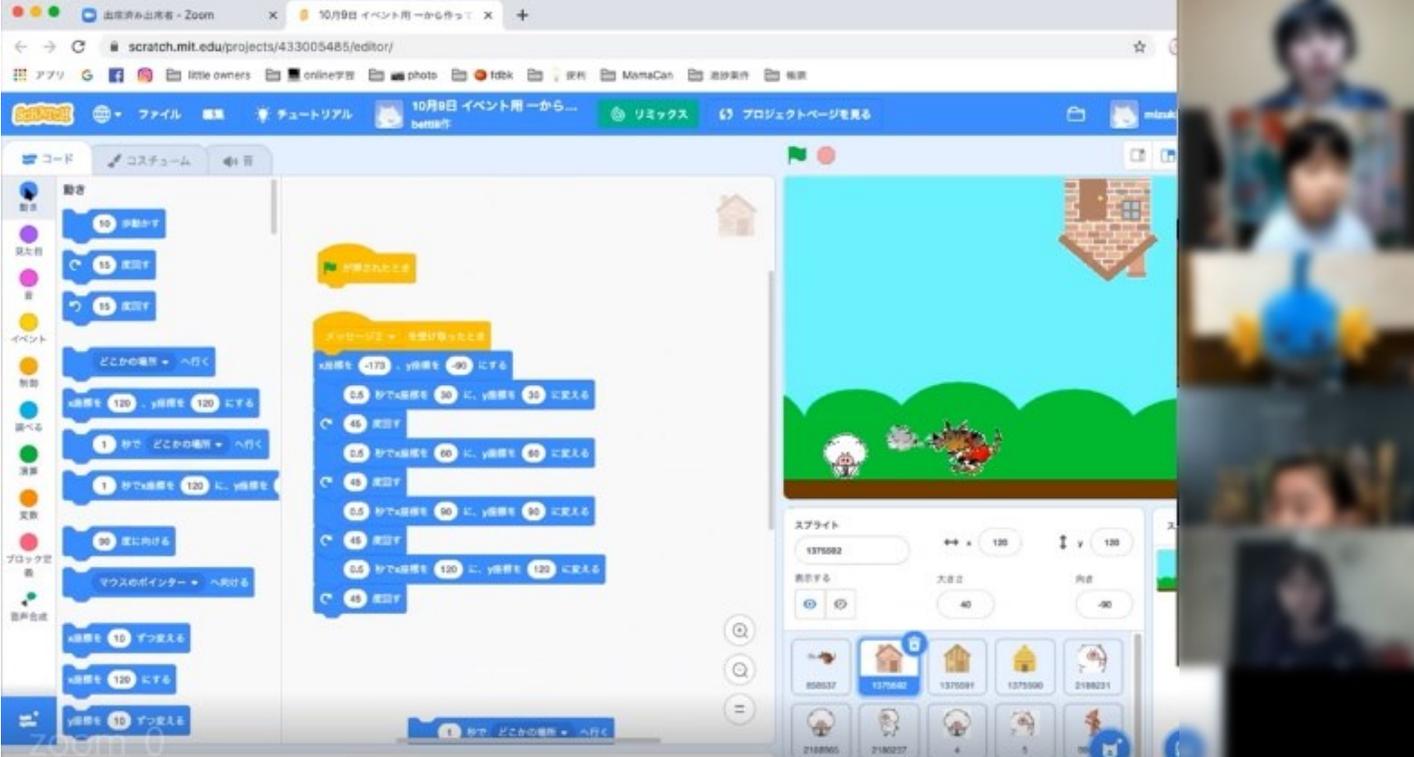
金曜日開催 プログラミングコース
"scratch"を使って、基本的なプログラミングの知識を学びながら自分オリジナルの作品を作っていくようにサポートしていきます。毎回作った作品をみんなで見せあい楽しむコースです。

4月まで入会無料！
詳しいコース全額2HPをご覧ください！
オンラインパーク説明会
3月25日(木) 10:00~11:30

興味はあるけどうちの子は大丈夫？
オンラインでやるのが少し不安・・・
オンラインパークの参加を検討される保護者さま向けにオンラインパーク説明会を実施致します。

お問い合わせ
info@m-tsunagaru.com
070-1362-3777

主催団体 まつどでつながるプロジェクト運営協議会



Scratch programming environment showing a code editor with various blocks (motion, sound, control) and a stage with a character and a house. The interface includes a toolbar, a script area, and a stage area.

Zoom meeting grid showing multiple participants in a virtual classroom setting.

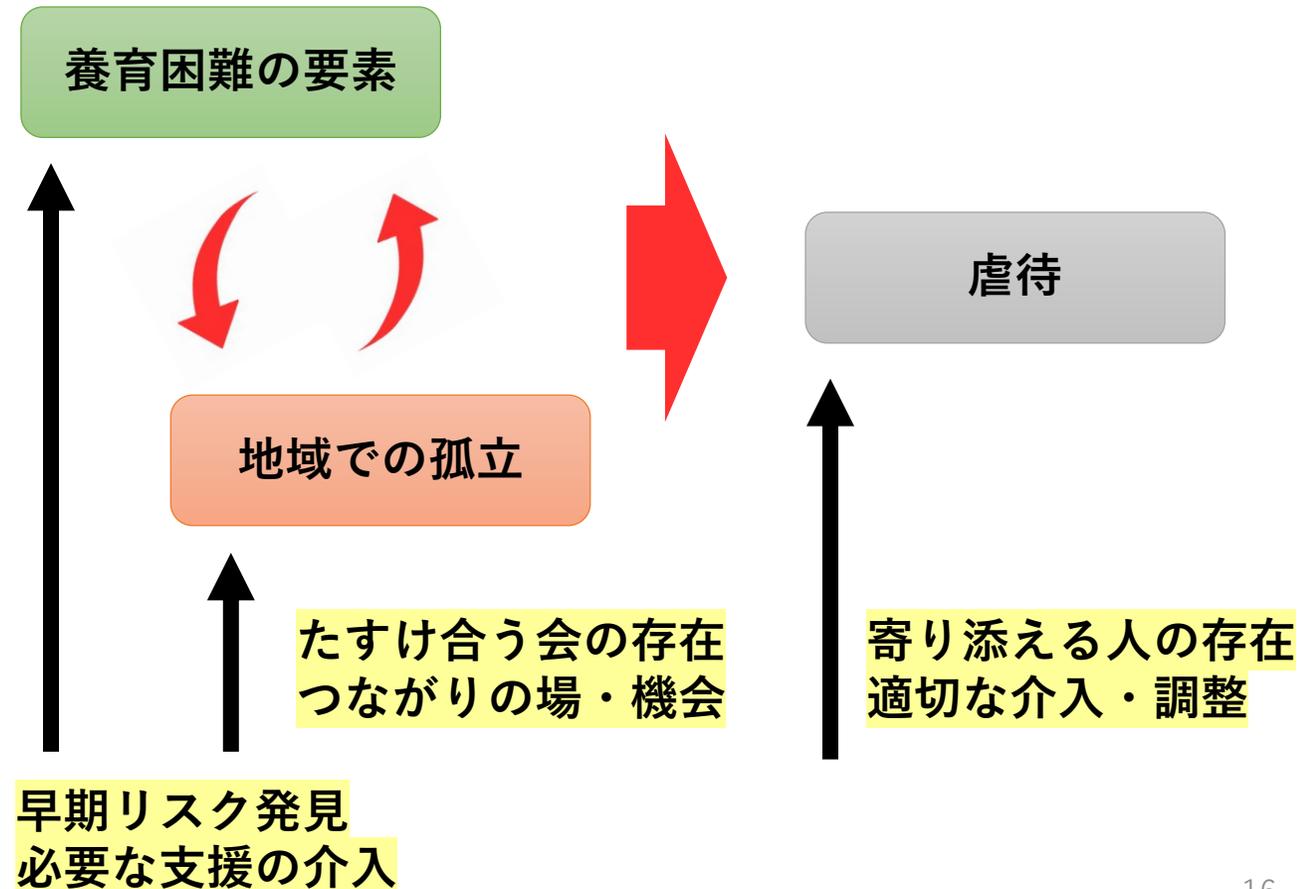
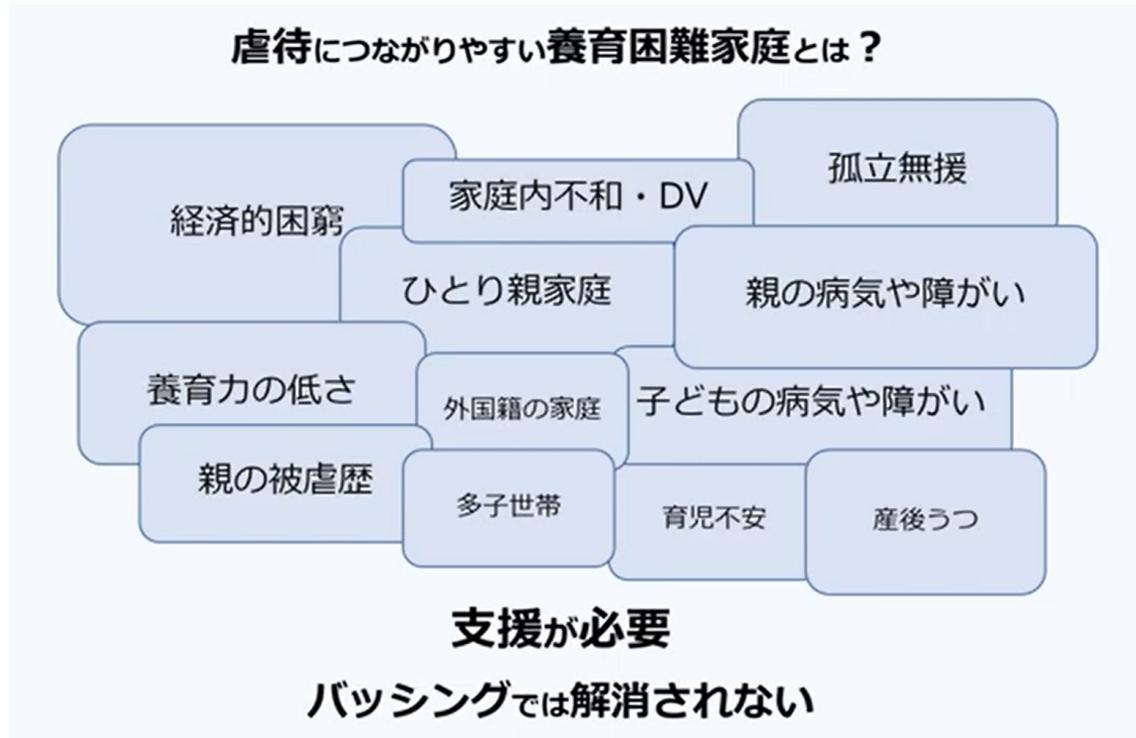
⑦ 自らつながれない、つながろうとしない世帯への「移動販売車（キッチンカー）」によるアウトリーチ型支援活動

親子や子どもの遊びとくつろぎを乗せて、市内を回るキッチンカー「駄菓子屋カフェくるくる」です。市内のお寺の境内や協力いただける事業所の敷地で展開しています。



活動を進めてきた中で感じる官民協働の可能性

「あらゆる子育て世帯が孤立せず、より良い環境で子育てができる仕組みづくり」



引用：特定非営利活動法人バディチーム ホームページ掲載動画より

今後官民協働で実現したいこと

第1段階…当事者の視点を大切に、既存の支援（資源）がアップデートされる

→多様なステークホルダーが課題を共有する地域円卓会議

第2段階…地域（民間）で見守りつなげられる人を増やす

→グレーゾーン～（ハイリスク）家庭に寄り添って支える応援サポーター（仮）

※現状の資源の状況を精査した上で必要な部分に焦点をあてる

第3段階…支援を必要とする家庭がはざまに落ちて孤立しない

→官官民民が安心安全に協力し合える情報共有の仕組み

※個人情報扱い方、相互に信頼を置いて紹介できる関係づくり

官民協働で目指したい姿

①自ら積極的につながれない人にこそつながる

自ら声をあげる人を待つのではなく、個人に届ける・地域に入っていくアプローチによって、これまでの仕組みではこぼれてしまっていた人の課題を見える化する。

②子育ての周りにはいる人たちがつながる

子育てを支える資源がつながり、目指すべき共通の評価システムを確認し合える場を構築することで、地域におけるセーフティネットが強化される。また支援者・当事者だけでなく、様々な主体を巻き込み、街全体の子育てに対する意識を変えていく。

③子育ての早い時期から、どの段階でもつながる

母子手帳交付・産婦人科・市役所各種届け・就園・就学・商店・美容室・企業など、様々な場所で周知をはかり、能動的でなくても日常の中でアクセスできる。